

氏名（本籍） 大武 彩子（東京都）  
 学位の種類 博士（音楽）  
 学位記番号 甲第6号  
 学位授与年月日 平成26年3月19日  
 学位授与の要件 学位規則第4条第1項  
 学位論文題目 J. オッフエンバック《ホフマン物語》ヒロイン研究  
 —1人全役の可能性を探る—

学位論文等審査委員

（総合審査）	委員長	教授	久保田 慶一	
		教授	岩森 美里	
		教授	塩原 麻里	
		教授	下原 千恵子	
		教授	横井 雅子	
		教授	吉成 順	
（演奏審査）	委員長	教授	久保田 慶一	
		教授	岩森 美里	
		教授	小林 一男	
		教授	下原 千恵子	
			佐々木 典子	（東京芸術大学音楽学部教授）
（論文審査）	委員長	教授	久保田 慶一	
		教授	塩原 麻里	
		教授	横井 雅子	
		教授	吉成 順	
			岡田 暁生	（京都大学人文科学研究所教授）

審査結果の要旨

審査所見

学位審査委員会は、申請者 大武 彩子（博士後期課程声楽研究領域）の学位審査修了リサイタルならびに学位申請論文に関して、厳正な審査を行った。以下に、1. 演奏審査、2. 論文審査、3. 総合審査、に関する所見を記す。

1. 演奏審査

学位審査修了リサイタルは、J. オッフエンバックの歌劇《ホフマン物語》より、「オランピア」、「アントニア」、「ジュリエッタ」、「ステッラ」が登場する4つの場面〔第2幕：第9番、アリア、第12番、第3幕：第13番、第15番、第16番、第4幕：第18番、第20番、第22番、第5幕：第24番、第25番A、第26番〕で構成され、審査者以外に、歌手7名、合唱9名、ピアノ1名、指揮者1名の協演を得て行われた。演奏には、新・批判校訂版「ケイ&ケック版」（ショット社。2005年）が使用された。

この歌劇ではステッラのなかに3人（オランピア、アントニア、ジュリエッタ）の魂が宿っているという設定から、本来は1人のソプラノがこれら4役を演じるべきであった。しかしさまざまな事情から、この上演形態は声楽的に困難とされてきた。しかし近年「ケイ&ケック版」

の登場によって、ヒロイン1人が全役を歌う形態が容易になり、本審査においても申請者は1人で4役を歌った。

審査に際しては、適確な声楽歌唱技術でもって、4役の特徴を表現できるかが観点とされた。演奏は全体を通じ、コロラトゥーラの高い技術でもって、4つの役が見事に演奏された。またデュエットや合唱でのアンサンブルはバランスのとれたものとなり、何より1時間に及ぶ演奏は敬服に値する。ただし演奏が進むにつれて、コロラトゥーラなどの表現が均一になり、平板な印象を与えてしまったのは残念であった。また会場の条件にも制約があったが、会場の空間性を意識した呼吸法や身体表現が望まれる。

しかし申請者の歌唱的スキルはきわめて高く、今後、オペラ歌手として活躍できる素地をもち、将来の発展が大いに期待できる。よって演奏審査委員会は「合格」と判定した。

## 2. 論文審査

論文の題名は「J. オッフエンバック《ホフマン物語》ヒロイン研究—1人全役の可能性を探る—」である。論文では、原作や作品の成立史、上演史、エディション研究、特に近年の新・批判校訂版を代表する「ケイ&ケック版」に集積された知見を活用して、ヒロイン1人で4役を歌うことの可能性を追求した。その結果、このオペラは作曲者自身が1人4役を望んだという事実を越えて、1人全役での上演が妥当性をもつことが明らかにされた。

論文では、音楽分析の方法や叙述において多少の課題はあるものの、ソプラノ歌手としての視点を活かした独創的な記述にあふれた論文であり、すぐれた内容となっている。以上により論文審査委員会は、声楽領域の学位論文として、すぐれた論文であるとして判断し、合格とした。

## 3. 総合審査

博士研究において、研究と演奏実践をどのように関連づけるかは、演奏領域における重要な課題であるが、申請者の研究においては両者が意味深く結ばれている。研究面では演奏家としての発想に導かれて緻密な資料研究と作品研究が行われ、審査修了リサイタルで提示された「1人4役」の演奏は、研究を通して得られた作品理解に支えられていた。博士後期課程としての標準期間である3年間で一定水準以上の成果が導かれことも高く評価される。今後はさらに完成度の高い演奏と研究にむけて進展をのぞみたい。これら全体を審査し、社会において自立した演奏家としてみとめられるとの総合的な評価のもと、「博士（音楽）」Doctor of Musical Artsの学位を授与するに相応しいものと判定する。